

平成29年4月1日から令和8年2月28日に 前床突起部髄膜腫に対する摘出手術

を受けた方へ

— 研究実施のお知らせ —

研究の題名： 前床突起部髄膜腫手術における前床突起削除の適応とタイミングの再考
研究期間： 病院長の許可日～令和9年3月31日
研究責任者： 脳神経外科 部長 村上 謙介

青森県立中央病院脳神経外科では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする生命科学医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の目的と意義について】

前床部髄膜腫は、視神経の近くに発生し、視機能障害の原因となる疾患です。手術は眼の保護とともに、腫瘍の根治を目指し行ないます。髄膜腫はその多くが良性ですが、視神経や血管を傷つけずに全てを除去することが難しい腫瘍です。腫瘍を安全に、視神経にストレスをかけずに摘出するため、手術では視神経周囲の頭蓋骨の一部、“前床突起”という部分をドリルで削除します。これまで、この骨の削除は全ての患者さんに対して、腫瘍を取る前に行なうことが良いとする考えが主流でしたが、骨の削除自体が視神経や血管を損傷するリスクもあるため、全ての患者さんで行なわなくてもよいのでは？、腫瘍を取りながら、必要と判断されてから行なってもよいのでは？との意見もあります。

青森県立中央病院脳神経外科では、患者さんごとに、前床突起削除の必要性和タイミングを検討して、摘出手術を行なっています。腫瘍の摘出の程度や視機能温存率は、全国的に見ても良好な結果ですが、このことについてもう少し詳しく分析し、これまで医学論文に発表された治療成績と比較し、学会等で意見を交わすことは、当院の治療成績の更なる向上のために有益であると考えています。

【研究の方法について】

平成29年4月1日から令和8年2月28日の間に、前床突起部髄膜腫に対する摘出手術を受けられた患者さんを対象とします。カルテや、これまで撮影したMRIを参照し、腫瘍の大きさや摘出の程度、前床突起削除の有無やタイミング、視機能温存について調査します。

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべてカルテより取り出しますので、改めて患者

さんに行っていたくことはありません。

【個人情報の取扱いについて】

収集したデータは、匿名化した上で、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする生命科学医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【お問い合わせ等について】

この研究へのご協力は、患者さんご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

また、患者さんや代理人の方のご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。希望される方は、以下までご連絡ください。

〈お問い合わせ等の連絡先〉

青森県立中央病院 脳神経外科
部長 村上 謙介
TEL：017-726-8111